2019 年度JAあさひかわ地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

JAあさひかわは合併農協であり、その耕地は水田農業推進ビジョンを従来作成していた地域で数えると、旭川市より5地域、鷹栖町より1地域の合計6地域で構成されています。

道内有数の米所である上川地区の例に漏れず、耕地の大半は比較的平坦であり、良質米の生産に適しています。生産調整が実施される中、加工用米等の作付に取り組み、水張面積の維持拡大に努めています。

畑作転作においては、それぞれの地域でコントラクター事業や受託作業組合が発達し、麦・大豆・そばといった土地利用型作物を戦略作物に据え、一定の品質及び数量を確保するべく作付を行ってきました。

野菜については、大規模畑作転作が不可能な地域でも、水稲との複合経営を行う柱として、地域の特性にそった多種多様な品目が作付されています。近年は、農産物価格の低迷や、生産者の高齢化・担い手の経営面積大規模化による労働力不足により、野菜の作付面積は年々減少しています。

飼料作物においては、大規模酪農地域を有することもあり、耕畜連携の考えに基づき、耕種農家の生産調整対策および酪農生産者の振興を目的として、一定の牧草地による収穫物を酪農家へ安定供給し、地域農業の底上げに努めています。

しかし、全体的に転作田において作付する品目は収量・品質ともに、より上を目指す事が可能であり、適期刈取や適切な施肥管理、新たに必要な取組を行い収益力の向上に努めます。

その他の作付においては、条件不利地や労働力不足による耕作放棄地候補が増大する中、地力増進作物や景観形成作物の作付により、農地を保全管理し、地域全体として水稲をはじめ農作物の生産に適した環境を維持しております。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米の主産地として、水稲作付希望者全員に対する数量目標の一律配分による安定的な供給を行いつつ、出荷した低タンパク米割合に応じた数量目標の傾斜配分を基準範囲内で実施し、高品質な米づくりを併せて推進して参ります。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

あさひかわ地域の水田面積維持のため、生産の目安の配分により生じた水稲転作は、加工用米を中心に対応していきますが、それらの需要を超えて発生する可能性があるため、関係機関と連携をとり飼料用米について多収品種を中心とした生産を視野に入れ、取り組みを検討して参ります。

イ 米粉用米

あさひかわ地域の水田面積維持のため、需要に即した生産を図ります。

ウ 新市場開拓用米

あさひかわ地域の水田面積維持のため、需要に即した生産を図ります。

エ WCS 用稲

今後、取り組みを検討して参ります。

才 加工用米

あさひかわ地域の水田面積維持のため、生産の目安の配分により生じた水稲転作は、加工用米を中心とした需要に即した米の計画生産と安定供給を行い取り組みを推進して参ります。

力 備蓄米

あさひかわ地域の水田面積維持のため、需要に即した生産を図ります。

(3) 麦、大豆、飼料作物

米に続く産地の形成を実現するため、小麦・大豆(黒大豆含む)といった換金性の高い土地利用型作物による作付け推進を積極的に展開し、高品質・安定生産のできる生産基盤の強化を目標に取り進めます。

また、利用供給協定に基づき飼料作物を地域内の有畜農家へ安定供給することにより、地元資源を有効に活用し地域全体の農業力を高めます。

更に、農畜連携を継続し耕種農家と畜産農家の連携を深め、相互扶助による地域 活性化を行います。

(4) そば

地域名がついたブランド蕎麦を根幹に、生産力・高品質化を踏まえつつ近隣の水 稲圃場に考慮した生産調整作物として作付けを展開し、需要に即した生産を目標に 取り進めます。

(5) 高収益作物(園芸作物等)

消費者に安心して選択してもらえる青果物の産地を目指し、人・環境に優しいクリーン農業に取り組んで参ります。

生産性の向上に資する作物として、既存生産者及び新規就農者に対し高収益作物を推進します。あわせて旭川青果物出荷組合連合会や鷹栖振興公社等、各関係機関との連携を強化するとともに、農産物直売所等に出荷し地産地消を推進するため、消費者の需要に即した旭川・鷹栖町産野菜を振興します。

(6) 畑地化の推進

JAあさひかわ地区は優良な米産地であり、水稲の水張面積を維持し、米の生産 出荷をより良質な状態に改善しつつ維持していきたい、という基本方針であります。 積極的な畑地化の推進ではなく、国営・道営といった基盤整備事業と照らし合わせ、 整備計画と連携をとりつつ選択肢の一つして把握して執り進めます。

3 作物ごとの作付予定面積

作物		前年度の作付面積	当年度の作付予定面積	2020 年度の作付目標面積
		(ha)	(ha)	(ha)
主食用米		2, 421. 1354	2, 420. 0000	2, 330. 0000
飼料用米		0.0000	0.0000	5. 0000
米粉用米		25. 6653	25. 0000	30.0000
新市場開拓用米		89. 2897	90.0000	100.0000
WCS 用稲		0.0000	0. 0000	0.0000
加ユ	用米	144. 1516	160. 0000	180. 0000
備蓄米		0.0000	10.0000	10.0000
麦		128. 8950	140. 0000	150. 0000
大豆	Ē	290. 3490	280. 0000	270. 0000
飼料	4作物	599. 1930	605. 0000	615. 0000
そに	ť	467. 9860	450. 0000	430. 0000
なた	:ね	0.0000	0.0000	0. 0000
その)他地域振興作物	275. 0190	282. 5000	291. 0000
	小豆	3. 9210	4. 0000	6. 0000
	花卉	4. 6210	5. 0000	6. 0000
	果樹	0. 7100	1.0000	1. 0000
	野菜	116. 1810	120. 0000	125. 0000
	原料トマト	2. 4680	2. 5000	3. 0000
	地力増進作物	147. 1180	150. 0000	-
非交	を付対象作物	159. 9620	204. 873	266. 373
面積合計		4, 667. 3730	4, 667. 3730	4, 667. 3730

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理	対象作物	使途名	目標		
番号				前年度(実績)	目標値
1	小麦・はだか麦	収益力向上取組助成 (小麦・はだか麦)		2018 年度	2021 年度
			作付面積	128ha	140ha
			反収	282kg/10a	350kg/10a
	大豆	収益力向上取組助成 (大豆)		2018 年度	2021 年度
2			作付面積	83ha	85ha
			反収	126kg/10a	220kg/10a
	黒大豆	収益力向上取組助成 (黒大豆)		2018 年度	2021 年度
3			作付面積	206ha	210ha
			反収	204kg/10a	250kg/10a
	飼料作物	収益力向上取組助成 (飼料作物)	作付面積	2018 年度	2021 年度
4			取組面積	599ha	600ha
		(以 以介 十	42 心山頂	200ha	500ha
5	蕎麦	収益力向上取組助成	作付面積	2018 年度	2021 年度
3		(蕎麦)	反収	467ha	480ha

				25kg/10a	70kg/10a
6	小豆	収益力向上取組助成 (小豆)	作付面積 取組面積	2018 年度 3. 9ha 1. 0ha	2021 年度 3. 9ha 3. 7ha
7	野菜・花卉	地域振興作物加算 (野菜・花卉)	作付面積	2018 年度 128ha	2020 年度 131ha
8	原料トマト	地域振興作物加算 (原料トマト)	作付面積	2018 年度 2. 34ha	2020 年度 3ha
9	果樹	地域振興作物加算 (果樹)	作付面積	2018 年度 0. 69ha	2020 年度 1. 4ha
10	地力増進作物	基盤整備対象圃場に 対する地力増進作物 助成	取組面積	2018 年度 0ha	2019 年度 145ha
11	飼料作物	資源循環助成 (耕畜連携)	作付面積 取組面積 牧草収量	2018 年度 447. 27ha 56. 44ha 200kg/10a	2020 年度 460. 0ha 60ha 400kg/10a
12	飼料作物	水田放牧助成 (耕畜連携)	作付面積 取組面積	2018 年度 447. 3ha 1. 45ha	2020 年度 460. 0ha 2ha
13	蕎麦	蕎麦作付助成 (追加配分)	作付面積	2018 年度 466ha	2020 年度 430ha
14	新市場開拓米	新市場開拓米助成 (追加配分)	取組面積	2018 年度 87ha	2020 年度 100ha

[※] 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

[※] 目標期間は3年以内としてください。